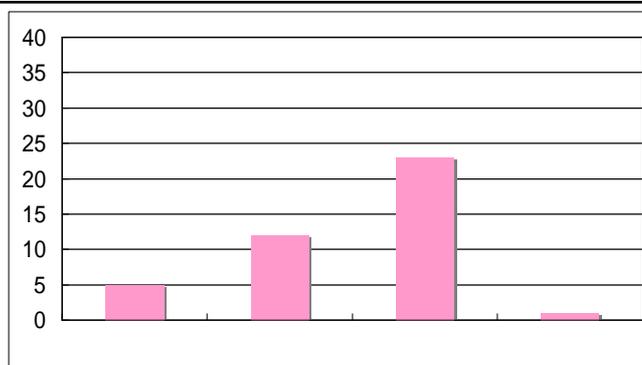


アンケートの回答結果



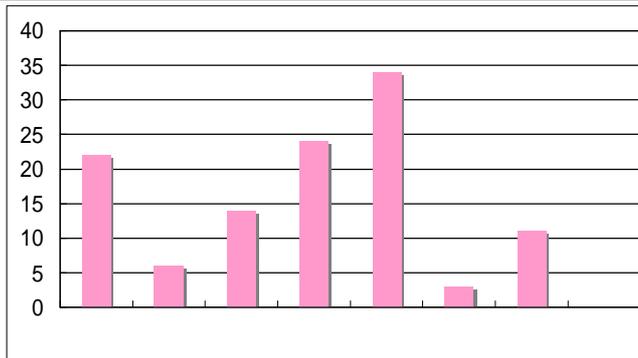
Q1. もし自分が、がん(悪性腫瘍)の診断を受けたとしたら、あなたは、以後、治療を受ける施設をどのように選択すると思いますか？

初めに診断を受けた病院でそのまま治療を受ける。
がんセンターや大学病院などの専門医療機関を受診する。
自分で情報を収集した上で、納得できる病院を選択する。
その他



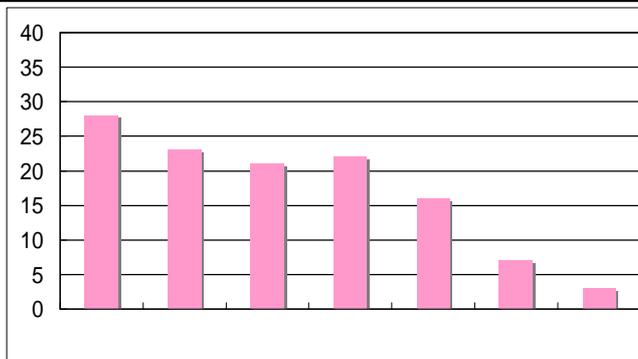
Q2. Q1の選択を行う際、以下の評価基準のうち、あなたが重要と思うものを3つ選んで下さい。

- 通院の便宜性
- 病院のアメニティ(感じのよさ)
- 最新の高度医療機器の存在
- 診療スタッフとのコミュニケーションの取りやすさ
- 医師の治療技術
- 医師以外のヘルスケアワーカーの力量
- 臨床心理士や緩和医療チームの存在
- その他



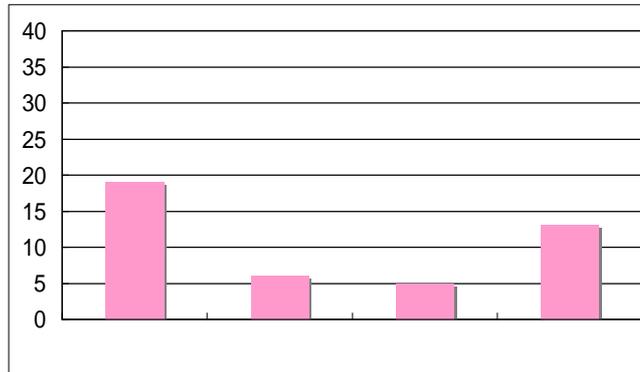
Q3. がんの治療法を選択する上で、あなたがもっとも重要と考える項目を三つ選んで下さい。

- 治療の方法(手術、放射線、抗がん剤、またはその組み合わせなど)
- 治療成績(その治療を選んだ場合に予測される一定期間後の生存率あるいは平均的な生存期間)
- 治療が身体や心を与えるダメージ
- 副作用が身体や心を与えるダメージ
- 治療後のQOL(生活の質)の低下
- 治療にかかわる費用
- 治療に必要な入院または通院期間

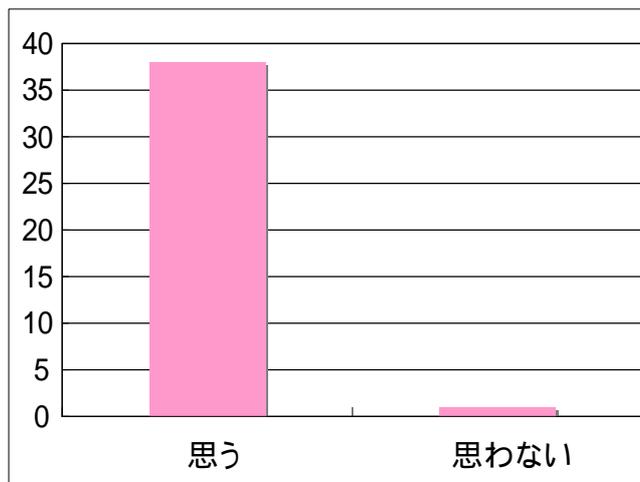


Q4. 以下の項目のうち、あなたが、がんの専門医に、もっとも強く期待するものをひとつだけ選んで下さい。

優れた治療実績
わかりやすい説明の技術
最新の医学知識
患者の心理面へのきめ細かな配慮

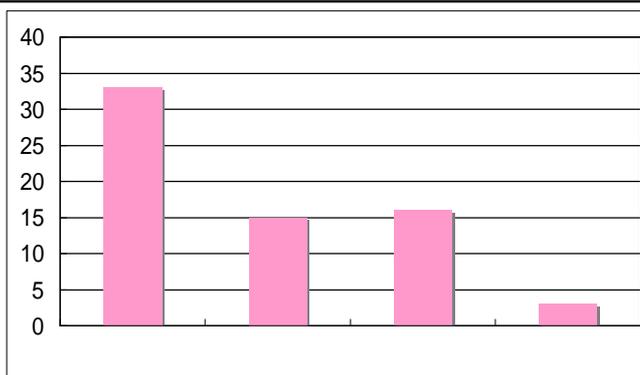


Q5. あなたは、がんの治療成績には、専門の治療施設間においても較差があると思いますか？



Q6. (Q5で1と答えた方のみご回答下さい。)がんの専門施設間においても、治療成績に較差が存在するとすれば、それは主に何に起因するとお考えですか？(複数回答可)

医師やコメディカルの知識や技術の差
来院する患者の重症度の差
診断や治療に要する医療資源(設備や薬剤・医療材料)の差
上記1-3以外の要因

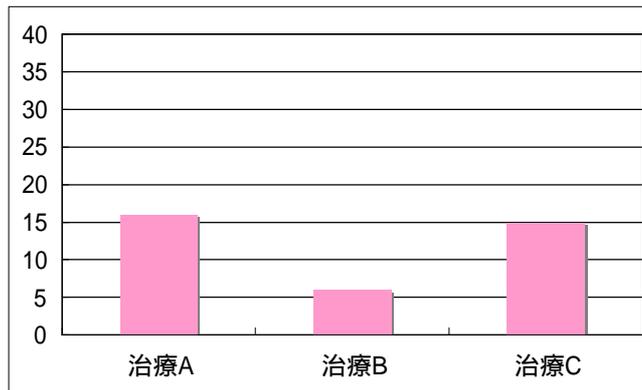


Q6で「1-3以外の要因」を 選択された方の回答内容

- 小児がん治療における集学的治療の重要性
- 情熱
- 患者の心

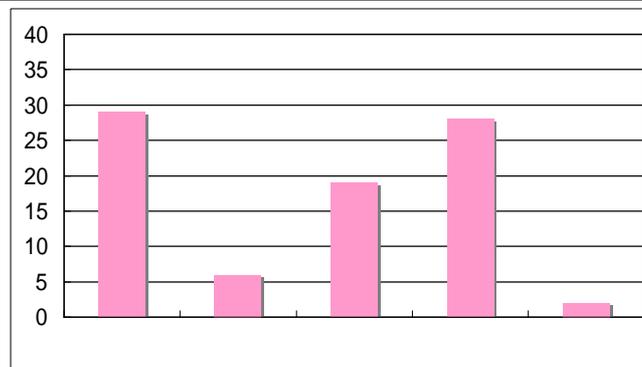
Q7. 医師より、がんに対する治療法として、もし以下の3つを提示された場合、あなたはどの方法を選択すると思いますか？(生存率や死亡率は、科学的な方法によって算出された根拠のある数字であることを前提とします。)

治療A: 5年生存率が60%、合併症(副作用)による死亡率が20%
 治療B: 5年生存率が30%、合併症(副作用)による死亡率が1%
 治療C: 治療Aを改良する目的で開発された新しい治療法の臨床試験



Q8. 患者やその家族が、納得できる治療の選択を行う上で必要な情報を主治医以外から入手しようとした場合、それがどのような方法で提供できることが望ましいと考えますか？(複数回答可)

他の病院の医師によるセカンドオピニオン
 健康保険組合などの電話相談
 インターネットのホームページ
 中立的な団体が実施する学習講座
 その他



Q8で「その他」を選択された方の回答内容

- 患者会や入院している(治療を受けた)患者や家族との懇談会

ご協力ありがとうございました！

